

# 学位論文審査の要旨

学位申請者	三浦 尚子 2017年3月 単位修得退学		論文題目	精神障害者の「地域移行」における生の技法とケアの場所
審査委員	主 査:	水野 勲 教授	インターネット 公表	学位論文の全文公表の可否 : 否
	副 査:	熊谷 圭知 教授		「否」の場合の理由
	副 査:	倉光ミナ子 助教		<input type="checkbox"/> ア. 当該論文に立体形状による表現を含む
	審査委員:	小谷 眞男 教授		<input checked="" type="checkbox"/> イ. 著作権や個人情報に係る制約がある
	審査委員:	石丸径一郎 准教授		<input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている
学位名称	博士 (社会科学)			<input checked="" type="checkbox"/> エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている
(英語名)	(Ph. D. in Human Geography)			<input type="checkbox"/> オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている
				※本学学位規則に基づく学位論文全文の インターネット公表について

## 学位論文審査・内容の要旨

本研究は、精神障害者を隔離病棟から一般社会へ移行する「脱施設化」を、精神科病院を廃止せずに進めるという日本的な「地域移行」の政策において、精神障害者自身がどのような生の技法を發揮し、その中でケアの場所を形成してきたかを、10年余りにわたる参与観察と聞き取り調査に基づいて、特に人文地理学の視点から明らかにしようとした研究である。

2019年12月18日に審査委員会の設置が正式に承認され、第1回の審査委員会を12月25日、第2回の審査委員会を2月13日に開催した。第2回の審査委員会の後、2月27日に最終原稿が提出され、審査委員会では3月3日の公開発表会と最終審査委員会を開催することとし、学外からも関係の研究者が出席する中で公開発表会を行った。

第1回の審査委員会では、博士論文の実証研究部分にあたる3章の初出論文が日本の全国学会誌に2本が掲載、1本が審査中という質の高さが認められたものの、これらを1つの学位論文にまとめる中で枠組みとなるいくつかの概念が混在し、「生の技法」という言葉に適切に統合されていないとの指摘があった。また類型化を急ぐあまり、豊富なフィールドワークの語りが十分に生かされていないとのコメントもあった。これを受けて第2回の審査委員会に提出された論文では、日本の精神障害医療の政策用語である「地域移行」を理論的、実証的に論じることとし、特に欧米各国の「脱施設化」と日本の「地域移行」では歴史的・文化的にコンテキストが異なることを指摘し、外-制度(エクスティテューション)、あいだの空間、ケアの場所など人文地理学に関わる諸概念を明瞭にし、グループホームにおける精神障害者の生きられる経験の聞き取りが大幅に追加された。これらの加筆によって、論文全体が一つのテーマの中に統合されたことは認められたが、当初めざしていた精神障害者の「生の技法」という積極的側面が弱まったとの指摘も行われた。最終原稿では、これらの残された課題を修正し、最終原稿が提出された。

公開発表会では、日本の精神科医療に関する国際的な位置づけ、精神障害ケアシステムにおける地域の概念などの評価があったものの、著者が新たに提示した施設vs外-施設、制度vs外-制度という4象限図の有効性についていくつか質問があった。また空間や場所という人文地理学の基礎的な概念について、整理はされているものの、一部で空間と場所の混在、さまざまな空間概念の併用なども指摘された。この他に、日本の「地域移行」の諸類型との対応関係、本研究の日本的な性格、「生の技法」における精神障害者の「戦術」について、質問があった。いずれも著者のフィールドワークの調査経験に基づく応答がなされた。

本研究の意義は、日本で性急に進められている精神障害者の「地域移行」が、政策によって病院外の自治体、家族を中心に考えられてきた現状に対して、精神障害者の「生きられる経験」に注目して、長年の参与観察と聞き取りから、精神科病院内、グループホーム、作業所という3つの「地域移行」の側面について調査したことにある。これまで日本の人文地理学において精神障害者の「空間」が細かに明らかにされたことはなく、また精神障害者の医療政策において障害者自身の日常の「生の技法」に関心が寄せられていなかったことから、本研究の意義はそこに理論的、実証的な基礎を与えたことに求められる。聞き取り結果の記述において、地理学の伝統的な手法である地図作製や地名を用いた詳しい説明を、精神障害者および施設が特定されないように適切に行うという難しい論文執筆上の問題も乗り越えた。以上のことにより、本論文は、日本の精神科医療の政策および人文地理学における社会空間の考察において、博士(社会科学)、PhD. in Human Geographyにふさわしいものと審査委員会は最終的に判断した。